



国労せんだい

No. 2598
2011年1月15日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

全組合員が一丸となって闘おう

春闘勝利 地本活動家交流集会

地方本部は1月8日、こくろう会館において、「11春闘勝利！活動家交流集会」を開催した。集会には各支部と分会の代表者が出席し、11春闘勝利に向けた諸活動や取組みについて、積極的に討論を行った。

集會は中島執行副委員長が一言となり闘うことを呼びかけた。続いて東日本本部佐藤正幸執行副委員長が「11春闘情勢と私たちの課題」と題した講演を行った。【別掲】

また、宮城・福島・仙総の各支部が職場実態を交えた報告を行った。続いて地本五十嵐書記長は、11春闘勝利を始めたとして運動の展開と組織強化・拡大に向けた取組みを一括して提起し、代表者らに意思統一を要請した。さらに全体討論では渡辺

12・3 団交（冬季関係 設備・営業）
12・10 第3回執行委員会・第1回闘争委員会
12・11 第32回アスベスト対策委員会
12・11 全国組織部長会議
12・12 第15回東日本マラソン大会
12・12 貨物エリア代表者会議
12・12 歳（仙総・台車）、人見（貨物福島）、桜井（仙総・組立）、大河原（郡工・装置科）、渡辺一（仙総・台車）、阿部（郡工・車体科）、山田（岩沼駅連）ら各氏が質疑に立ち、地方本部と東日本本部に見解を求めた。

12・14 団交（ダイヤ改正等関連以外）
12・16 第35回地本運輸協議会定期総会
12・17 エリア・地方代表者会議
12・19 春闘事務局会議 地本安プロ・業長会議
12・21 団交（総合車両セ業務改善見極め要求）
12・22 団交（ダイヤ改正等関連以外）
人一要求アンケートを基に職場要求作成。総括として会社施設で集会。他労組と使用実態の差があり改善が必要。
▼会社との対話は複数でなく個人で対応されている。執行部以外も参加し共有化

春闘情勢と私たちの課題

▼JR不採用問題の政治解決に向けた到達点
①解決の扉をこじ開けたのは「一人の首切りも許さない」という団結の力。
②JR各社は「解決済み」と頑なな姿勢。
③政治情勢は混沌。国交大臣が問責決議可決。状況の見極めが大事。

④妨害勢力が窓口議員にJRへの採用について異議の申し入れ。窓口議員は「約束事であり出来ない」と返答。
▼労働条件改善に関する協約締結に向けた取組み
①大会では修正案など様々な意見が。内容は一括和解以降の実態と懸案事項の改善・組織拡大への条件整備・締結前に会社との状況を分析・メリットとデメリット、等である。
②基本は一括和解の精神・主旨を労使関係の機軸に置くこと。和解の実効性の向上・懸案事項の解消と整理が課題。

▼組織強化拡大に向けて
①一括和解以降87名、大会から4名の拡大。
②2月20日に組織部長会議を開催し、意思統一を図る。

▼新人事業員制度について
①内容については良い部分のみ流布されているが、負の部分もある。
②会社は1月下旬に提案、4月1日実施の考え。

※春闘情勢（国内外の経済を巡る情勢分析）は紙面の都合上、割愛します



佐藤執行副委員長

▼労働条件改善・安全安定輸送の確立に向けて
①乗務員を除く職種が外注化に。出向先の労働条件改善は大きな課題。東の子会社であるJRバスとの団交に応じるなど交渉ルールに一定の前進。
②各事業の整理には不十分さが残り残念な結果に。
③今後、合理化・効率化

▼職場からの報告要旨
宮城県支部 山田書記長
▼不採用問題。和解成立するも闘争団体の生活状況は変わらない。具体的支援を。▼エルダー。遠隔地など希望と違う就労箇所の提示。来年度の就労箇所が提示されない状況も。超勤で過収入になると年金が減額される

▼福島県支部 佐藤書記長
▼不採用問題の全面政治解決に向け、本部を支え精一杯取り組む。
▼11春闘は「一人一要求」と現場長との交渉を柱に運動を組み立てる。2月12日に春闘討論集会。執行部は全分会オルグを取り組む。
▼昨年秋に実施した課題を絞った班・分室交流は力に。▼組織強化拡大。昨年の駅・信通分会の取り組みに学ぶ。温度差はあるが、職場を機軸に運動の構築を。

▼統一地方選。組織内候補の当選に向け主力を尽くす。
▼仙総支部・小松車体分会長
▼岩手からの遠距離通勤者があり、配転希望の実現化と合わせ、モニター制度の柔軟な改正を求める。
▼郡工への配転希望者に対する他労組の組織攻撃阻止。▼分会活動。春闘時期に一



ゴールする大知里選手

地本選抜 健闘及ばず 全力尽くすも七位

12月11日、第15回東日本本部主催による「皇居外周マラソン大会」が開催された。昨年3位、一昨年準優勝の実力を持つ仙台選抜チームは、今年も上位入賞を狙うべく、昨年にも増して練習を重ね、また体調を万全にしてレースに臨むよう調整を続けていた。

しかし結果は7位。入賞にも届かない結果だ。原因は様々あった。若きエースランナー高橋祐輝の欠場。APECの開催により、大会が11月から12月に延期になったことによる大

「常勝」の復活 長野が溜飲を下げる
優勝は常勝の長野。一昨年来まで4連覇を続けていたが、昨年伏兵の千葉に優勝をさらわれてしまった。今大会で見事雪辱を果せたのは層の厚さだ。

盛岡発 国労運動の将来を見据える

国労東北協議会は11月27、28日、岩手県雫石町鶯宿の南部富士見ハイツにおいて、活動家交流集会を開催。秋田・盛岡・仙台の東北三地本の役員・活動家らは、情勢認識の一致と今後の闘いの意思統一を図るため、学習と交流を行った。また東北協議会の定期総会も開催された。

集会は東北協議会橋本事務局長（仙台）の司会と挨拶で開会。主催者を代表し、瀬下議長（秋田）は、▼JR不採用問題▼労働条件改善

情勢報告

本部高橋委員長



積極的に発言する仙台の参加者
また情勢報告として、本部高橋委員長はまず不採用問題について触れ、11月4日、窓口会議において四党には解決金と雇用はセットであると理解を求めたことを明らかにし、また四党から国交大臣と官房長官に申し入れを行う予定であったが、ビデオ流出問題他でタイ

秋田から仙台へ 佐藤さん復帰！

4月1日付けの出向発令により、体調を崩されていた佐藤典彦さんが、11月16日付けで復職しました。
11月中は第一建設仙台支店勤務で、12月1日より東北フォトプリント（仙台）の事前通知が出されました。
佐藤さんは「不安障害」という診断で約7カ月間病欠となり、治療に専念していました。

ろばた No.847 2010.12.1より

問題提起

エリア松井書記長

また東日本本部からは松井書記長が、「国労の最重要課題であったJR不採用問題が、雇用という大きな課題を残しつつも、解決という節目を迎え、当面する組織拡大を中心とする取組みを進める組織強化と体制作りが求められている」と述べ、JR会社と他労組の動向、国労の現状と課題、今後の取り組みについて報告がされた。

ミングを逸し、仕切り直しの状態であると述べた。またJR側の巻き返しも強く、「6月で解決済みであり、雇用は筋違い」との姿勢を崩していないと報告。
更には、今後の課題としては、▼国労組織が職場の中心に座り、仲間の信頼をどう作るか▼組織の強化・拡大▼大会以降16名の加入があり、更に取組みを強める▼青森新幹線開業と並行在来線問題▼ナショナルセンターの今後の在り方、について述べた。

特に、ナショナルセンターについては、「国労は全労協に所属しているが、1047名問題のために作られた背景がある。連合からオファアがあり、今後社会的な労働運動を作るためにどうするか、大胆な議論を要請したい」と述べた。

続いて、組織拡大に向けた取組みとして、東日本本部武田組織部長から組織問題の現状と課題が提起され、更にはこの1年間で4名の組織拡大があった武蔵小金井駅連合分会の取組みについて、東京地本常盤教宣部長より報告を受けた。

強調されていたのは、▼楽しい職場であること▼キーマンが必要であること▼人間関係で他労組に勝つこと、であった。

職場報告では、盛岡地本から米田勝義氏（盛岡車セ）、佐々木政志氏（青森車セ）、秋田地本から小林昭宏氏（秋田電力技セ）、仙台地本からは吉田浩一氏（会津宮下駅）と菅野聡氏（米沢駅）がそれぞれ職場実態報告を行った。

東北協議会は27日に第25回定期総会を開催し、活動方針（案）ならびに会計報告は満場一致で承認された。なお新役員は以下の通り。

議長 瀬下 一司

副議長 齋藤 庄司

副議長（兼）事務局長 橋本 昭二

幹事

渡邊 敦（秋田）
佐々木 力（盛岡）
五十嵐 敬（仙台）
岩井 幸二（貨物）

会計監査

小林 良宏
久米 竜一

運輸協議会

運輸協議会（千葉弘議長）

長）は12月16日、こくろう会館において、第35回定期委員会を開催し、一年間の運動の総括と新たな活動方針を決定した。

委員会では活発な討論と問題提起がなされ、大友事務局長は、▼中間駅の一人勤務の問題点▼機械化・営業制度等の教育研修の徹底▼乗務員の要員不足問題について、改善に向け積極的に取り組むと集約した。

委員会では出された主な意見・報告

▼業務委託駅が仙石・仙山線で増加と聞くが不安
▼一人勤務で椅子対応。連絡体制を確実に

▼不採用問題は雇用確保に頑張る【仙石線駅連】

▼一人勤務は列車遅延・異常時は休憩・食事が取れず
▼各種システムの講習時間が短い【岩沼駅連】

退職のお知らせ

11月30日

渡辺 勝一さん
小牛田駅連

長沢 勝幸さん
若松地区

国分 正敏さん
郡総車体科

長い間お疲れ様でした
エルダー

改善に向け積極的に取り組む

▼運協費の値上げは理解

▼運協の在り方も様々聞こえるが、現状で良いと思う【会津若松地区】

▼新規採用者の組合説明会と歓迎会を開催

▼分会情報の担当者が代わることが継続して発行したい

▼大会で新体制に

▼闘争団へのカンパ打ち切りは早過ぎたという意見があった

▼乗務員で精神疾患で休職。対応が難しい

▼運協費の値上げは理解するが大切に使用してもらいたい【郡山駅連】

▼冬期対応として若い社員が配属に【新庄駅連】

▼福島駅では国労のベテランが配転に

▼一交代勤務でベテラン不在時は不安

▼輸送に若手が不在【福島地区】

▼休日勤務が多く、特に若手に集中

▼愛子折り返しの乗務中、愛子で吐血。当直に連絡するも、代替要員が居ないと仙台まで乗務。愛子で対応すべきであり問題

【仙・宮運輸区】

▼病気で早期退職者。減額措置がなくなれば頑張れるはず。制度改正を

▼若手との繋がりが無い。会社の懇親会利用を議論【小牛田駅連】

▼車掌の臨時行路が月50時間、休日勤務が30日発生。病欠者もおり要員不足は明らか

らか

▼新人車掌は運転士になるための腰掛に

【小牛田運輸区】

▼12月ダイヤ改正は制度的に問題が。乗車券発売で社員に詳しい説明がなされず、責任だけは社員に転嫁

▼若手との会話から職場の問題点を点検したい【仙台駅連】

新役員体制

議長

千葉 弘

小牛田運輸区

副議長

石塚 和弘

大河原駅

加藤 孝一

郡山運輸区（営業分科長）

事務局長

渡辺 斉 仙台駅

幹事

安斎 則之

仙・宮運輸区

中葉 昌利

福島総合運輸区

塚原裕次郎

郡山駅

洪谷 慶次

さくらんぼ東根駅

会計監査

八木沼 利昭

米沢駅

野地 仁

仙台運輸区